



REPORT ③

雪合戦大会が県知事表彰
広島県いきいき地域づくり賞



▲2列目左から3人目が高橋実行委員長

広島県雪合戦大会実行委員会が、「広島県いきいき地域づくり賞」を受賞しました。

この賞は、自主的な地域づくり活動により地域振興や地域活性化に貢献している団体を表彰するもので、今年1月に創設。本年度は10団体が選ばれ、藤田雄山知事から賞状が手渡されました。

表彰式に出席した高橋進実行委員長は「これまでの活動が認められ大変うれしい。これも実行委員をはじめ地域住民、協賛企業、参加者など多くの皆さんのおかげ。この受賞を励みにこれからも頑張っていきたい」と笑顔で話していました。

第13回大会は、平成22年2月6日(土)・7日(日)に開催される予定です。

"笑い"で心の健康づくり
久代でげんきシリーズ

REPORT ④

心と身体の元気づくりを目指す久代公民館の「久代でげんきシリーズ」が9月9日に開催され、約30人が参加しました。

この日は、5回シリーズの第2回目。広島県北部保健所の保健師が「うつ病」をテーマに講演し、うつ病になりやすい人、治療法などをスクリーンで説明しました。その後、笑いの療法士の悠遊亭無彩さんによる落語が披露され、会場が笑いに包まれました。

参加者は「誰かに相談することの大切さや、日々の生活の中に笑いが必要だということを感じた」と話していました。

今後、「久代でげんきシリーズ」では、リハビリ体操や地元の食材を使ったおせち料理などについて学習していく予定です。



▲悠遊亭無彩さんの落語で気持ちをリフレッシュ

REPORT ⑤

活動発表で技術の向上を図る
庄原市読み聞かせ研修・交流会



▲講演する戸井さん

庄原市読み聞かせ研修・交流会が9月9日、口和ヒューマンライツで開催され、市内で活動する「本の読み聞かせグループ」など約60人が参加しました。

本の読み聞かせは、子どもたちの心の安らぎや豊かな感性を引き出すことができます。研修・交流会では、「ふれ愛・高め愛・広め愛の心をみんなへ」をテーマに、庄原市総合サービス棟の戸井妙子さんが「読むよこび」と題して講演。また、「口和本の会」が映像に沿って被爆体験記を朗読したり、各グループによる発表が行われたり、読み書かせ技術の向上を図りました。

このイベントは、口和公民館が初めて行いましたが、参加者は「実行委員会を立ち上げ、来年もぜひ開催しよう」と話していました。

庄原市消防団が初入賞
県小型ポンプ操法競技大会

REPORT ①

広島県小型ポンプ操法競技大会が9月9日、広島県消防学校で開催され、庄原市消防団が6位入賞を果たしました。

この大会は4年に1度開催され、県内各市町から選ばれた24チームが出場。4人で編成されたチームが可搬ポンプを使用し、火点標的を倒すまでの所要時間と団員の動き、操作要領などを競いました。



▲厳しい練習をこなしてきた8人



▲火点標的に向かって放水

出場した庄原市消防団の選手は、庄原方面隊の山内西分団と敷信分団から選抜して構成。4月から練習に励み、庄原市消防団として初入賞という快挙を成し遂げました。県大会入賞は、合併前を含め初めてのこと。

表彰式では、広島県知事から優良賞、そして(財)広島県消防協会から優良杯が贈られました。また、特に優秀であった選手に贈られる優秀番員表彰では1番員の田森裕行選手、3番員の宮本和則選手が選ばれました。

REPORT ②

地域医療の現状を再認識
小児科医を囲み座談会

子育て中の母親11人と庄原赤十字病院の小児科医との座談会が8月12日、庄原子育て支援センター「ひだまり広場」で開かれました。

これは、広報しょうばら8月号の特集「守りたい!地域医療」をきっかけに、本市の小児医療を考えようと、ひだまり広場に集う母親が企画。金丸副部長から医師不足など小児科の現状について説明を受けました。

金丸副部長は「庄原市の小児科は絶対になくしてはいけないし、なくさないよう広島大学病院の医局へお願いしている」と庄原市への熱い思いを語り、「小児科を守るためには、医師と保護者の信頼関係が大切。このような意見交換を通してお互いに理解を深めましょう」と呼びかけました。

話を聞いた母親は一人一人感想を述べ、「小児科の厳しい現状を初めて実感した。このことを同世代の



▲金丸医師への思いを伝える参加者

お母さんにも伝え、医師を守る取り組みを広げていきたい」などと話していました。

REPORT ⑨

愛町歌から「らくちん体操」を創作 高野健康運動教室で元気の輪



▲座ってできるバージョンも考案

高野支所市民生活室と上高公民館は7月16日と8月21日の2日間、上高公民館で「健康運動教室」を開催し、延べ45人が参加しました。

この教室は、参加者全員で身体にいい体操を創作しようと、健康運動指導士の大背戸まりこさんを講師に迎え、高野町で昔から親しまれている「愛町歌」に振り付けを考えました。

完成した体操には「高野町らくちん体操」と名付け、DVDを作成。参加者は「激しくなくて、全身を動かせるいい体操ができた。今後各地域の老人クラブやサロンで幅広く活用し、高野地域に元気の輪を広げていきたい」と話していました。

町代表目指し白熱したラウンド 高野町自治振興区グラウンドゴルフ大会

REPORT ⑩

各自治振興区の親睦を図ろうと、高野町自治振興区連絡協議会が9月5日、グリーンサーキット高野でグラウンドゴルフ大会を開催しました。

高野町の11自治振興区から予選を勝ち抜いた24チーム96人が競技に参加。グリーン・林間・フラットの3コース24ホールで白熱したラウンドが繰り広げられました。参加者は、高野町グラウンドゴルフ協会の会員や、この日のために練習を重ねてきた方も多く、ホールインワンが続出し、レベルの高い大会となりました。

団体の部の優勝は中門田Aチーム。個人の部の男女上位5人ずつが秋に開催される庄原市民健康づくりグラウンドゴルフ大会に高野町代表として参加する予定です。



▲和気あいあいの中にもプレーは真剣

REPORT ⑪

もみじの葉で縄文土器風に 帝釈公民館陶芸教室



▲思い思いの器を作る参加者

帝釈公民館の陶芸教室が9月9日に開催され、時悠館の中越利夫所長の指導で、参加者12人が素焼き陶芸に挑戦しました。

この日の陶芸は、ろくろを使わず、粘土を棒状にして重ねていき、手や竹べらで形を整え、貝や縄で模様をつける縄文土器風の器。参加者は形を整えたり、つなぎ目や隙間をなくしたりするのに四苦八苦しながら、時間を忘れて夢中になっていました。イメージした形に整えると、公民館周辺のもみじの葉や実で模様をつけ、乾燥後、野焼きで仕上げました。

参加者は「できた器にこけ玉を載せて飾ったり、寄せ植えをしたりして楽しみたい」と喜んでいました。

REPORT ⑥

感謝の気持ちなど堂々と発表 備北地区中生意見発表大会



▲日常生活で感じたことを意見発表

中学生が学校や家庭、日常生活での体験を通じて感じたことを発表する「第22回備北地区中生意見発表大会」(主催:備北青少年健全育成連絡協議会)が8月19日、庄原市ふれあいセンターで開催されました。

この大会に、庄原市と三次市の中学校19校から35人が参加。演壇に立った中学生は、200人を超える聴衆を前にして緊張しながらも、家族や友だちに対する思い、クラブや地域活動を通して感じたこと、社会や政治についての考えなどを5分程度にまとめ、自分の意見を堂々と伝えました。

会場に集まった大人も、次代を担う若い世代からのメッセージに真剣に耳を傾けていました。

農家民泊で農村の良さをPR 三河内地域協議会が受け入れ

REPORT ⑦

小学生たちが農家に宿泊し、農業や昔ながらの暮らしを体験する農家民泊が比和町三河内で行われ、三河内地域協議会が8月25日から27日の2泊3日の日程で、福山西深津小学校の47人を迎え入れました。

比和町を訪れた子どもたちは、三河内地域協議会の12戸の農家へ民泊し、おじいさん・おばあさんの体験談や農作業、牛とのふれあいを楽しみました。また、宿泊先の農家がおにぎりなどを持って登山を満喫し、田舎の良さや大自然の美しさを感じていました。また、8月28日から29日には、上下南・北小学校の48人が農家民泊を体験しました。

農家民泊は、力強い子どもの成長を支える教育活動として広まっており、三河内地域協議会では昨年より小学生を受け入れています。



▲山頂で子どもたちにガイド

REPORT ⑧

文化財を巡り市の魅力再発見 亀谷自治振興区「土曜塾」



▲白雲洞で記念撮影

市内の歴史や文化を学び、ふるさとを大切にする子どもたちを育もうと、総領町の亀谷自治振興区が8月8日、「土曜塾」史跡・文化財探訪の旅を開催しました。

同自治振興区内の子どもたち5人が参加。今回は東城町内をバスで巡り、老舗旅館「三楽荘」や竹屋饅頭本舗、帝釈峡博物館展示施設「時悠館」、白雲洞、雄橋を見学しました。

竹屋饅頭本舗では、特別にできたての「竹屋餅」をいただいたり、帝釈峡で珍しい植物や昆虫を見つけたり、子どもたちは大興奮。「白雲洞で野生のコウモリを見て驚いた。今度はもっと遠くへ行ってみよう」と喜んでいました。

この土曜塾は、同自治振興区の教育文化部が生涯学習活動の一環として平成19年度から始めています。